

ワークショップのご案内

一般社団法人日本箱庭療法学会第 35 回大会を鳴門教育大学（徳島県鳴門市）および Zoom（ハイブリッド）にて開催いたします。今回は、12 名の先生方にワークショップ講師をお引き受けいただくことができました。

ワークショップの形式は、講師に一任しています。コースによって、テーマに即した参加者からの事例提供を募集しています。詳細は各コース（A～L）の案内をご覧ください。

みなさまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

1. ワークショップ概要

日 時： 2022 年 10 月 15 日（土）9:30～12:00（受付開始 9:00）
会 場： 鳴門教育大学（〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748）／Zoom（ハイブリッド）
講 師： （50 音順・敬称略）

A	伊藤 良子	（京都大学名誉教授）
B	猪股 剛	（帝塚山学院大学）
C	岩宮 恵子	（島根大学人間科学部）
D	岡田 康伸	（京都大学名誉教授）
E	河合 俊雄	（京都大学こころの未来研究センター）
F	川崎 克哲	（学習院大学）
G	川戸 圓	（川戸分析プラクシス）【講師・発表者はオンライン参加】
H	桑原 知子	（放送大学・京都大学名誉教授）
I	田中 康裕	（京都大学大学院教育学研究科）
J	豊田 園子	（豊田分析プラクシス）
K	森谷 寛之	（京都コラージュ療法研究所・京都文教大学名誉教授）
L	山中 康裕	（京都ヘルメス研究所・京都大学名誉教授）

※D コースはオンサイトでの参加者が 10 名未満の場合には開講されません。

※J コースの定員はオンサイトのみで 20 名です（オンライン参加はできません）。

受 講 費：

	A	B
	〔 7 月 31 日までに お申し込みの方 〕	〔 8 月 1 日以降 お申し込みの方 〕
会 員	6,000 円	7,000 円
非会員	8,000 円	9,000 円

*当日参加は、定員に余裕のある場合に限り可能です。

受 講 資 格： 一般社団法人日本箱庭療法学会正会員。もしくは臨床心理士の有資格者、臨床心理学を学んでいる大学院生、臨床心理学およびその関連領域で実践的な仕事に従事されている方で、心理臨床事例に関する守秘義務を遵守できる方。

2. ワークショップ・コースのご案内

A 分かりにくい箱庭表現

講 師: 伊藤 良子（京都大学名誉教授）

内 容: 本学会のこれまでのワークショップにおいては、分かりにくい箱庭表現を取り上げて来ました。分かりにくい箱庭表現は、神経症状態におけるイメージ表現とは異なり、統合失調症や自閉スペクトラム症・一部の心身症等に見られました。それらにおいては、若干の相違はありつつも、繰り返し同じような表現が続くことも生じました。今回は、非行歴がある10代後半の少年の箱庭表現をご提示頂きます。面接が続くに従って、分かりにくい箱庭表現が生じて来た事例です。

事例提供者: 石原 宏氏

B 箱庭療法から生まれる〈自然〉と〈私〉とその関係

講 師: 猪股 剛（帝塚山学院大学）

内 容: 本ワークショップでは、小学校高学年の男子の箱庭療法過程を〈自然〉と〈私〉という観点をもって検討していきたい。本箱庭療法は、砂と水だけの制作に始まり、そこに自然のダイナミックな動きが現れ、さらに人が関わり自然を整え、町や都市が展開する。そして、〈自然〉と関わりながらも〈自然〉と対立する〈私〉がそこから生成してくる。発達障害傾向が心配されていた男子が、箱庭を通じて自分のあり方を立ち上げていく過程がそこに見えてくるだろう。当日は、制作された箱庭を一つ一つ時間をかけて検討し、この箱庭療法がどのような治療的な役割を果たしたのかをていねいに明らかにしていきたい。またその際に、C.G.ユングの錬金術的心理学の思想を参照し、特にユングが頻繁に取り上げる偽デモクリトスの格言「自然は自然を享受し、自然は自然を克服し、自然は自然を凌駕する」という言葉の意味や、「自然が不完全のままに残したものを、錬金術的な作業が完成させる」という言葉の意味を箱庭療法に沿って考察していきたいと思う。

事例提供者: 村田 知久氏

C 衝動のコントロールと「表現」一箱庭の「砂」の役割とは何だったのかー

講 師: 岩宮 恵子（島根大学人間科学部）

内 容: 本人にとっては正義感など正当な理由があることでも、それをそのままに不適切な方法で表出してしまうと、当然のことながらそれは問題行動となってしまいます。また本人が周囲での出来事に対して身体レベルで捉えた違和感が、衝動的な言動や、自分自身の身体へのこだわりなどになって出現してくることもある。そのようなことに対しては、どんなに言葉で制止したり指導したりしてもどうにもならないことも多く、周囲にとっても本人にとっても苦しい状況が続くことがある。今回は、小学校低学年のときに対人関係での強い暴力があって来談した女兒のケースについて、箱庭での「砂」表現や、その他のプレイなどから、表現することが、どのように自身を襲うさまざまな違和感や衝動のコントロールに影響を与えていたのか考えていきたい。

事例提供者: 田中 美樹氏

D 箱庭療法の基礎と事例

講 師: 岡田 康伸 (京都大学名誉教授)

内 容: 基礎が大切なことはいうまでもない。しかし、この頃基礎がおろそかにされているように思える。もう一度、初心に帰り基礎をしっかり皆さんと勉強したい。同じようなテーマでワークショップを実施しようとしてきたが、この2年程はコロナで中断していた。今回もコロナの状況が同じようになると、このコースの開催は無理になるかもしれない。

※Dコースについては、オンサイトでの参加者が10名未満の場合には開講されません。

事例提供者: 八柳 むつみ氏

E 箱庭療法と実習・訓練

講 師: 河合 俊雄 (京都大学こころの未来研究センター)

内 容: ヨーロッパ・アメリカでの心理療法家の資格条件には、自己体験（セラピーを自ら受けることなど）とスーパーヴィジョンが2つの大きな柱となっている。臨床心理士など日本での訓練を考えるとスーパーヴィジョンが中心となっていて、箱庭療法についても同じことが言える。ここでは、訓練・実習の中の箱庭の作成について検討してみたい

事例提供者: 受講者の中から訓練として実施した箱庭の事例を募集します。

F 4次元空間としての夢

講 師: 川崎 克哲(学習院大学)

内 容: 心理療法に関して、ユングが最重要視していた概念のひとつに「超越機能」がある。それは、「自我と無意識との対決」を通して「対立する二要素の間」から止揚された「第三のものを生み出す」機能と定義されている。この「第三のもの」こそが「象徴」である。「象徴」とは意識にとって「未知」のものであるにもかかわらず、その未知の何かが存在することを意識にもたらずのものであり、このような方法以外では示すことのできない「直観的観念」とされる。かような「象徴」によって精密に構成されているのが夢にほかならない。このような「象徴」の性質ゆえに、夢が意味深げでありつつも、意識にとってうまくその意味をとらえるのがむずかしいのも当然だともいえよう。夢は意識にとって「未知」のものを意識に「知らし」めようとしているわけだからだ。ここには、「知ることができないもの」を「知る」というある種の矛盾・パラドックスが生じている。夢のこのようなパラドキシカルな性質を理解するために、本ワークショップでは、比喩的に「4次元時空間」を導入して検討していきたい。たとえば、立体(3次元)を切断するとその切り口は平面(2次元)となる。同様に、平面(2次元)を切断するとその切り口は直線(1次元)となる。すなわち、ある次元空間の切り口は元の空間よりも次元数が1つ減少するわけである。この法則を逆向きに展開するならば、通常われわれの意識がとらえている世界のあり方である三次元空間とは四次元空間を切断することで生じる切り口にほかならない。意識(3次元)にとって次元が一つ上となる4次元がさきに述べた文脈では「象徴」ひいては夢に対応することになる。本ワークショップでは、このように意識と夢を3次元と4次元に比喩的に対応させ、4次元のものがどのように3次元世界に現れるのかを検討することで、夢の意味のとらえ方を考えていきたい(高度な数学の話などは出ないので、数学が苦手な人もご安心ください)。

事例提供者: 事例を募集いたします。事例の中に夢が出てくるものであれば主訴などを問いません。

G 歴史(時間と空間)を超えて顕現し、全体性を目指す「こころ」について

～箱庭・遊びが求める全体性～

講 師：川戸 圓（川戸分析プラクシス）

内 容：「無意識は時空を越える」とはよく言われることである。時空とは、「時間と空間」のことであり、「こころ」に「無意識」の領域を仮定する限りにおいて、私たちは、常に、時間と空間に縛られない領域を扱うことになる。「いま（今・時間）・ここ（場・空間）」から飛び立つのである。飛び立つための手段は、「こころ」が持つ想像・創造の力であり、ユング派的に表現すれば、「こころ」が持つ象徴（シンボル）を形成する力と言えるだろう。本ワークショップでは、一人の子どもの「こころ」が抱えた問題と、世代を超えた「こころ」の問題とが響き合いながら、箱庭や遊び（箱庭を用いての遊び）の持つ象徴性を手段として、ただ一人の子どもの「こころ」だけではなく、世代を超えた「こころ」全体の変容そのものに目を向けてみたい。それは、図らずも、「こころ」が持つ象徴によって、「こころ」そのもの全体性を目指す「物語」の誕生に出会うことでもあろう。

事例提供者：杉山 由利子氏

H 箱庭や夢などの「表現」とクライアントとの関係について

講 師：桑原 知子（放送大学・京都大学名誉教授）

内 容：箱庭や夢などの「表現」は、クライアントにとってどんな「リアリティ」をもち、またどのような「意味」を持つのだろうか。このことを考えることを通じて、箱庭や夢に代表されるような「イメージ」で表された「表現」とクライアントとの関係について、考えてみたい。また、「表現」されたものを、心理療法のなかでどのように生かしていくのか、箱庭療法や夢分析において、「イメージ」表現をどのように扱っていくのか、事例をもとに検討してみたい。

事例提供者：受講者の中から事例提供者を募集します。どのような場所で行われたものでも構いません。

I 心理療法と自我体験、あるいは十歳の危機

講 師：田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

内 容：前思春期から思春期にかけての自我の目覚めは、われわれの精神発達にとって極めて重要な出来事である。それは、自分自身を客観視することや親からの心理的な分離を可能にし、「自然」から「文化」、あるいは「社会」への移行の足がかりとなるからだ。しかし、そこに生じる内的な変化は、極めてラディカルなもので、それゆえ、そこにある「不連続性」という「穴」にときに落ち込むこともある。「十歳の危機」「魔の十歳」について語られるのはそのためである。このワークショップでは、島根大学の長谷川千紘先生に複数の前思春期の心理療法事例を発表していただき、それらを素材に、主として夢や箱庭、描画等のイメージ表現を通じて、掲題の「自我体験」や「十歳の危機」について考えたい。

事例提供者：長谷川 千紘氏

J 箱庭に触れること、感じること 一箱庭制作実習を通して一

講 師： 豊田 園子（豊田分析プラクシス）

内 容： 箱庭という技法は、理論を学ぶということよりも、とにかく一度自分で作ってみるという体験から得るものの方が大きいのではないのでしょうか。砂に触れ、なんとなく置きたくなったものを置く。それだけのことで、なぜかところが動かされる。そのような体験から、今まで気づかなかった自分に出会えるかもしれません。このワークショップでは、参加者の方々に実際に箱庭の制作を体験していただきます。今回はグループでの制作を通して、箱庭を見守る体験や、グループならではの力動性、そこで起こる非言語的な交流も味わっていただきたいと思っています。それによって箱庭がこころの深い部分に作用することを少しは感じていただけるかもしれません。臨床の場で実際に箱庭療法を用いている方も、そういう経験が無い方も、箱庭の魅力を体得する機会となればと思います。

※Jコースの定員はオンサイトのみで20名です(オンライン参加はできません)。

K 箱庭療法の原点から考える 一河合隼雄編(1969)『箱庭療法入門』再読一

講 師： 森谷 寛之（京都コラージュ療法研究所・京都文教大学名誉教授）

内 容： 本書は、1969年に出版された。この当時は、社会は唯物論の時代精神が支配しており、日米安保条約改正、大学闘争など騒然としていた。そんな状況にいささかも影響されず、河合はしっかりと未来を見据え、本書を出版したことになる。唯物論が支配している世間に、河合は理論を重視しながらも、理論にとらわれず「現象を的確に把握することを心がけ、経験を通して」箱庭療法を紹介している。最初から科学者としての態度を一貫して保持している。そのことは『カルフ箱庭療法』と読み比べて見るとよく分かるであろう。社会は、心が変容するということがどういうことなのか、目に見てわかるようになったのは、箱庭療法からである。しかるに、これは過去のことではない。今でも、いつの時代においても、心の問題は理解されない。改めて本書を読む価値がある。前半は筆者が本書を解説し、後半はそれを元に事例を検討したい。事例を募集する。

事例提供者： 受講者の中から事例提供者を募集します。

L 「表現を読む」


講 師： 山中 康裕（京都ヘルメス研究所・京都大学名誉教授）

内 容： 箱庭作品そのものは勿論のこと、他にも、重要な「Baum」であったり「LMT：風景構成法」であったり、クライアントの表現するものの、「表現の意味」をいかにして把むか？を私自身の事例を中心に話すつもりであるが、何らかの作品を持参されると、よりいい機会となろう。

事例提供者： 講師自身の事例も提供します。

3. ワークショップの受講申し込み

ワークショップの参加申込は、別紙「第1号通信」を参考に以下の要領でお申し込みください。

1. 別紙 第1号通信 3頁の「2. 大会参加の申し込み・参加費 (WEB)」と同様に右記 QR コードよりお申し込みいただけます。ご希望のワークショップを選択し、お申し込みください。先着順での受付となりますため、定員になったワークショップから締め切らせていただきます。
2. 自動返信メールにて参加費の合計金額をご確認いただき、**2週間以内**に下記口座へ諸費用をお振り込みください。**お振り込みの際には、必ず参加者ご本人の名義でお手続きいただき、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入の上、お振り込みください (例：00001 ハコ ニワタロウ)。**WEB 申し込みと諸費用のお振り込みを当方で確認でき次第、参加手続きが完了となります。なお、振り込まれた諸費用は、事情の有無に関わらず返金いたしませんのでご了承ください。

<ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

口座名：00920-0-310345


加入者名：一般社団法人日本箱庭療法学会年次大会

<他の金融機関から振り込まれる場合>

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：099 預金種目：当座 店名：〇九九店 (ゼロキウキウ店)

口座番号：0310345

3. 参加者の皆様に事例発表内容に関して「**秘密保持に関する誓約書**」の提出をお願いすることになりました。誓約書をご提出いただけない場合は、大会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますこと、あらかじめご了承ください。誓約書の提出方法は、参加申込完了後に誓約書フォームへの入力画面に移動しますので、内容をご確認いただき必要事項にご記入ください。参加申込時に提出できなかった場合は、右記の「QR コード」の入力フォームにご記入いただき提出をお願いいたします。
4. お弁当の予約販売を行いません (当日販売はありません)。「第1号通信」8頁をご参照の上お申し込みください。両日とも1個1,000円でお茶付です。当日、学内食堂・売店は閉まっております。また会場周辺には飲食店・コンビニがございませんので、ご予約をお勧めいたします。予約される場合は当会 HP の申込みフォームよりお申し込みください。お弁当はワークショップ終了後 (12:00) にお渡しいたします。
5. 事前申込者には、9月初旬にワークショップ概要 (研究発表参加の方には大会論文集) と名札 (オンサイト参加者のみ) を送付します。オンサイト参加者は、名札を必ず持参し、直接会場へお越しください。受付は必要ありません。

4. ワークショップの事例発表申し込み

1. 希望するワークショップ・コースが事例を募集している場合にのみお申し込みいただけます。なお、事例発表は原則として会員に限ります。
2. 「3. ワークショップの受講申し込み」と同様の申込みフォームよりお申し込みいただけます。「ワークショップ事例発表」のチェックボックスで「発表する」を選択いただき、発表予定題目、共同発表者を入力し、**2022年4月20日(水)**までにお申し込みください。
3. 事例発表の申し込みが多数あった場合は、講師と相談のうえ選択しますので、ご了承ください。

5. 研修ポイントについて

ワークショップ、シンポジウムの両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、ポイントが付与されます。詳細は、第1号通信7頁の「4.研修ポイントについて」をご参照ください。

ワークショップD、Lに参加された方はISST（国際箱庭療法学会）正会員になるために必要な「理論的トレーニング100時間」のうちの参加時間数として認定されます。ご希望の方は研修終了時に参加証明書をお申し込み下さい。ISST（国際箱庭療法学会）は世界の箱庭療法家が集い、学び合う場になっています。日本の箱庭療法への期待と関心も高まっています。皆様のご参加をお待ちしています。

MEMO.....

**一般社団法人 日本箱庭療法学会
第 35 回大会ワークショップに関するお問い合わせ・連絡先**

■一般社団法人日本箱庭療法学会 第 35 回大会準備委員会

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748
鳴門教育大学 臨床心理学領域内

E-mail : congress_jast@sandplay.jp

H P : <http://sandplay.jp/conference.html>

- * お問い合わせやご連絡は E メールでお願いいたします。
- * お電話でのお問い合わせには応じられませんので、あらかじめご了承ください。